

# 男女がともに 輝くために

共に輝くみほの会

(美浦村女性行政推進協議会)

□お問合せ 役場企画財政課  
☎029-885-0340 内線208

## 「住みたい村づくり」 講演会を終えて 山岡つぎ子

私たちは、「住みたい村づくり」をテーマに活動を進め、昨年度は村内の幼稚園・保育所に通う幼児のいる家庭を対象にしたアンケート調査を、今年度は、子育てをサポートする(預かる)側の保育所・子育て支援センターの職員の方より聞き取り調査を行いました。そして今回「住みたい村づくり」を皆で考えようと清山先生、加藤先生をお迎えして講演会を開催しました。

必要なのに、次世代が空洞化している。だからこそ女性・若者・高齢者の能力の活用推進が重要となってくる。特に女性の能力・女性の活躍を支援する社会の構築で「出産・子育て・介護」と「キャリア」の両立は可能になる」とお話しされていました。行政・村内企業・住民とで取り組んでいく必要があると思います。

私は家庭科とは衣食住の学びと想っていました。しかし『家庭科の分野は、衣食住、保育(子育てへの理解)、家族・家庭(男女共同参加社会)、家庭経済・消費教育・環境教育、高齢者とのかわり、生活文化の理解・継承、ライフプランニング・キャリアプランニングがあり、生きる力を育み、地域づくりの学びである』との加藤先生のお話に、私は目からうろこが落ちました。家庭科を学ぶのは現在・将来の生活をより豊かにするため。そして基本的欲求の充足(愛情・所属)と家族の大切さを知ることである。また地域活性化に繋げる地域コミュニティ育成が「住みよい村づくり」となるのである。と

の先生の言葉に活動の道を戴いた思いです。

私たちは多くの村民の方々との多角的視点から意見交換等を積み重ね、「住みたい村」になるよう活動を進めていきたいと考えています。

### 《演題》

◎働くおおかあさん、働くおばあちゃんの家計と経済

・講師 清山玲氏(茨城大学人文社会科学部法律経済学科教授)



◎ともに生きるともに暮らしを創る家庭科：生きる力・豊かな心

・講師 加藤路子氏(全国高等学校長協会家庭部会事務局長・元茨城県立土浦第二高等学校長)



(講演会開催日 11月23日)

## みほ文芸

正調俚謡 日和吟社題「書・道」一字以上詠み込み有季無季随意

一つ財布に二人の汗を入れて苦楽の道を踏む

曲がりくねった人生行脚母の生き様道標

亡父の書物に紛れた写真セピア色した若い母

妻は社交家「チンして食べて」走り書きして忘年会

時代変わって道徳心も失せて良い子が悪くなる

辛い道のり幼子抱え越えて咲かせた母娘花

生きた証の俚謡読む道に夢は果てなく宝物

息も絶え絶え山道登りや眩し眼下の滝紅葉

苦勞坂道誰もが出合う越えて人生春も来る

人はそれぞれ自分の道を信じ悩んで生きていく

書道習った息子の便り返事書くのに気が引ける

妻と書いてはため息ひとつ女独りの長い夜

派手な喧嘩の思い出遠く今は一緒の医者之道

姿勢正して机に向かい古希の手習い書を学ぶ

見れば一目で感じる文字は「武田双雲」書の力

もつと大きな道・山・川を想い描いたふるさとよ

### 十二月の俳句(題 当季雑詠)

ザクザクと大地の吐息霜柱

足出せば扉が開く去年今年

目が覚めて霜の声聞き袴合わす

喜寿祝ふ小春日和のありがたき

縄飛のまあるく風をちぎりけり

ポロの如猫の眠むれる小春縁

着ぶくれて二人の距離は縮まりぬ

電飾をまとう湖畔の冬木立

憂き事をさらりと流し戌年を

石地蔵つたの衣でおしゃれして

小春日や大仏笑みて風静か

北吹きぬ口笛のせて村に下り

袋田の刈田に残るわらボツチ

飯塚筑風

田島草実

石戸葎華

山崎笑子

篠原美千代

長谷川悦子

小蘭江久美

上野八千代

小池きよし

沼寄朋香

武田かずお

高橋一步

塚本夏雲

伊藤葉子

木村幸子

山口杏路

(五十音順)

青野安佐子

石毛恵美子

海道民子

木澤はしめ

高柳幸子

田島早苗

中島輝子

長田敏笑

松本秀子

松葉よしの

宮美也香

宮崎きみ枝

矢原はつひ